

な解析に有力な RI 検査とは、相補的に診断効果を高めるものと考えられた。

30. シンチグラムによる睾丸疾患診断の試み

鈴木 豊 杉原 政美
(東海大・放)
勝岡 洋治 河村 信夫
(同・泌)

東海大学病院では、泌尿器科と核医学科の協力により各種睾丸疾患に $^{99m}\text{TcO}_4^-$ によるスキャンを試みているので、典型的症例を供覧した。

各種疾患のスキャン所見は以下に述べる如くである。正常者では、睾丸部への血流は、ほとんど描出されず、静止イメージでは大腿部と同じ程度の活性を呈した。睾丸捻転症では、患側の血流分布は、正常者と同様が増大する傾向が認められた。静止イメージでは患側に円形の欠損が認められ、その周囲に、しばしば輪状の活性の増加した部位を伴うのが認められた。副睾丸炎では、患側への血流は増加し、静止イメージでは副睾丸に一致して高い活性が出現した。睾丸捻転症と副睾丸炎のスキャンによる鑑別は、極めて容易であった。精系静脈瘤では、静脈相で、異常プーリングが認められ、直後の静止イメージでも同様の限局した集積が見られたが、5分後のイメージ上では消失していた。

$^{99m}\text{TcO}_4^-$ による睾丸スキャンの臨床的価値は、諸家の報告によるように睾丸捻転症と副睾丸炎の鑑別が正確に、しかも容易にできることにある。われわれも臨床的に見逃されていた3例の睾丸捻転症をスキャンにより発見し得た。本法は、手技も簡単であり、核医学施設のある病院ならどこでも可能であるから、今後、睾丸捻転症の早期診断のために、その普及が望まれる。

31. ヨード過敏症患者に対する核医学的腎検査法について

柳沢 宗利 町田 豊平
三木 誠 大石 幸彦
上田 正山 木戸 晃
(慈恵医大・泌)

核医学的腎検査法の適応の一つに、ヨード過敏症患者の腎検索がある。そこでわれわれの教室で、昭和46年以後7年間にヨードショックを起こし、主として核医学的腎検査を行ないつつ経過観察している8症例をまとめて報告した。

代表例①は左腎腫瘍例で、 $^{99m}\text{Tc-DTPA}$ による RI-Angio と、 γ カメラレノグラムが臨床診断に極めて役立った。②は左腎結核例で、 $^{99m}\text{Tc-DMSA}$ による Renal Scan で病変部位が明らかになり、 $^{131}\text{I-Hippuran}$ レノグラムで尿管の通過障害も示された。③は右尿管結石例で、 $^{131}\text{I-Hippuran}$ レノグラムで右水腎症が示唆された。

なお1回の Renography に使用される $^{131}\text{I-Hippuran}$ 中のヨード量は、0.0123 mg であり、注意すればヨード過敏症例にも使用できた。このようにヨード造影剤が使用できない症例でも、Renography, Renal Scan により各種病変の診断が可能であり、検尿、KUB など補助検査の施行によって診断精度も高くなる。

32. 腎移植例の RI angiography に対する一考察

池田 滋 藤野 淡人
石橋 晃
(北里大・泌)
石井 勝己
(同・放)

移植腎における RI angiography の意義に関し、自家腎移植例を通し、若干の検討を加え考察した。使用装置は Nuclear Chicago 製 LFOV 型シンチカメラで、 $^{99m}\text{Tc-DTPA}$ 5 mCi 静注後3秒ごとの血流相を12枚、1分ごとの集積像を16枚撮影し、